

高崎市景観重要建造物について

－現在6件ある高崎市景観重要建造物とは？－



水上勝之

(水上勝之建築研究室)

1

6件の高崎市景観重要建造物



2

高崎市では、景観法(平成16年6月)に基づき、地域の自然、歴史、文化等からみて、建造物の概観が景観上の特徴を有し、良好な景観形成に重要な建造物を景観重要建造物として指定しています。

参照

- ・高崎市HP
- ・高崎市都市整備部都市計画課景観室発行
地域力で創る輝きの都市 高崎市景観計画
改訂版

3

配布資料①

高崎市景観重要建造物指定基準(概要)

●必須基準1

- ・ 地域の自然、歴史、文化などからみて、建築物の外観が景観上の特性を有し、景観計画区域内の良好な景観の形成に重要なものであること
- ・ 地域の活性化に資するもの
- ・ 歴史的価値があるもの
- ・ 建築的価値があるもの
- ・ 景観的価値があるもの

4

高崎市景観重要建造物指定基準(概要)

●必須基準2

- ・「高崎らしさの現れた景観」の特徴を有し、**地域で愛され、良好な景観**の形成に必要なものであること

●必須基準3

- ・道路その他の公共の場所から公衆によって**容易に望見**されるものであること

※文化財保護法の規定により、**国宝、国の重要文化財、特別史跡名勝天然記念物**として指定もしくは仮指定されているものは、景観重要建造物に指定できません。

国登録有形文化財： 高崎白衣大観音、吉田家住宅和泉庄御殿、小見家住宅(水村園)、 豊田屋旅館本館、等多数

5

指定番号	指定年月日	名称	所在地
第1号	平成22年2月1日	旧井上房一郎邸 昭和27年築	高崎市八島町
第2号	平成22年2月1日	群馬音楽センター 昭和36年築	高崎市高松町
第3号	平成22年2月1日	(財)山田文庫 茶室・江戸末期築を明治16年頃移築 主屋、土蔵2棟明治前期築	高崎市常磐町
第4号	平成22年2月1日	吉田家(旧釜浅肥料店) 大正～昭和7年築	高崎市高砂町
第5号	平成22年2月1日	浦野家 大正2年築	高崎市上豊岡町
第6号	平成22年2月1日	山田家(旧山源漆器店) 明治15年頃築	高崎市本町

6

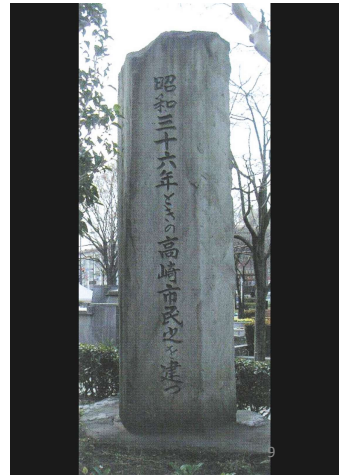
高崎市景観重要建造物・第1号 旧井上房一郎邸



高崎市景観重要建造物・第1号 旧井上房一郎邸

- ・木造平屋建て、在来軸組構造、昭和 27 年建造。
- ・この建物は、1952年にレーモンドの麻布笄町の自邸を、井上房一郎が同氏の同意を得て高崎の地に建てたもの。
- ・丸太の柱の外側に建具を設け自由に動く形とし、斜めに棟木に向かう登り梁も丸太とし、丸太の2ツ割の鋏状トラスで柱と一体化させている。
- ・天井を張らないためそれらの構造体が独特な意匠となっており、戦後のレーモンドスタイルの住宅の特徴が顕著に表れている。
- ・南面に連続する深い軒がせいひつな感じを与えており、レーモンドの作風を伝える趣のある貴重な建物と、井上房一郎の作庭によるうっそうとした樹林が一つとなって、何れにも代え難い独特な情景を伝えている。

高崎市景観重要建造物・第2号 群馬音楽センター



高崎市景観重要建造物・第2号 群馬音楽センター

- ・鉄筋コンクリート打ち放し、2階建て折板構造。
- ・この建物は1961年に市民の浄財を基にして、建築家アントニン・レーモンドの設計で建設されたもの。
- ・群馬交響楽団の活躍などにより群馬県が第1号の音楽モデル県となったことなどが音楽センター建設の契機となった。
- ・レーモンドはコンクリート打ち放しと折板構造、全面ガラス張りロビーなどを直截的に造形美に結び付けた。
- ・近代建築の特質である軽快なデザインが良く表現され、周囲の高木の豊かな緑と調和を図っており、城址地区におけるシンボリックな景観を形成している。
- ・文化遺産としての近代建築20選(国内)や公共建築100選に選ばれるなど、日本国内はもとより世界的にも注目されている建物である。

10

高崎市景観重要建造物・第3号 財団法人山田文庫



高崎市景観重要建造物・第3号 財団法人山田文庫

- ・木造2階建て、在来軸組構造、明治以前建造。
- ・山田文庫は旧中山道が常盤町で直角に向きを変える角地、江戸から明治期の建物が多く残り、明治初期から産業が興隆したこの地区の中心的位置にある。
- ・明治以前の建物と思われる屋敷蔵、土蔵2棟、明治16年移築の茶室、九蔵町の茂木銀行から移築したと伝えられるレンガ塀があり、歴史探索には興味深いものがある。
- ・明治・大正・昭和と産業界で中心的な役割を担った山田昌吉、大正末期のドイツ滞在を経て京大教授、高崎倉庫社長となり、1974年に山田文庫を創設した山田勝次郎はここを自邸として活躍した。
- ・両者の業績を考えると当時は商都高崎、文化都市高崎のシンボルといえる。

12

高崎市景観重要建造物・第4号 吉田家(旧釜浅肥料店)



高崎市景観重要建造物・第4号 吉田家(旧釜浅肥料店)

- ・ 木造2階建て、在来軸組構造、大正、昭和7年建造。
- ・ 大正末期から昭和初期に造られた木造の旧店舗や主屋、レンガ蔵、門などが商都高崎の歴史を今に伝えている。
- ・ また、主屋は保岡勝也という、一時代を築き上げた著名な建築家の設計によるもので、近代和風住宅の志向をよく表した質の高い造りとなっている。

(※原則として非公開)

高崎市景観重要建造物・第5号 浦野家



高崎市景観重要建造物・第5号 浦野家

- ・ 木造2階建て、在来軸組構造、大正 2 年建造。
- ・ 養蚕農家の中では、入母屋造りの屋根、漆喰仕上げの外壁、鰻絵を持つ等、大変珍しい凝ったつくりとなっている。
- ・ 都市化の進む中で主屋、馬屋、土蔵、物置そして南側の池と庭、北東側の竹林等当時の豊岡地区の代表的な農村景観が良好な状態で残っており、その意味で大変貴重な存在といえる。
- ・ 歴史的建築物の活用という面では、当家の主屋の2階は「遊々舎」という名のギャラリーとして地域に開放されており、高崎市における歴史的建築物の保全・活用の先駆的な事例として今後の見本となるものといえる。

(※原則として非公開)

高崎市景観重要建造物・第6号 山田家(旧山源漆器店)



東立面図

17

高崎市景観重要建造物・第6号 山田家(旧山源漆器店)

木造2階建て、明治15 年頃の建造。

- ・この山田家のある本町地区は、明治13年の大火により町家の大半が焼失した。
- ・その後、この一帯の町家は防火を考慮し、土蔵造り瓦屋根葺きに変貌するが、この店蔵と主屋もその頃建て替えられたものと思われる。
- ・その後、昭和37年、都市計画路の整備に伴い多くの建物が建て替えられ、土蔵造りの店蔵が失われていったが、そんな中でこの山田家は、曳き屋をして残された数少ない例といえる。
- ・北側の通りに向かって熨斗瓦積みの棟瓦、鬼瓦及びカゲ盛を見せる屋根、それを受ける3段の軒蛇腹、2階の2つの窓に備え付けられた軸吊り形式の防火扉、そして漆喰で仕上げられ、更に黒く塗られた外壁を持つこの店蔵は、重厚感にあふれ、通行する人々が思わず足を止める程、印象深いファザードをつくっている。
- ・関東地方の店蔵造りの特徴を今も大切にしている建物は、高崎市にはこの山田家以外にはなく、その意味で高崎市民は大変貴重な歴史的遺産を有しているといえる。

(※原則として非公開)

18

高崎市景観重要建造物に関わって



水上勝之

19

第1号 旧井上房一郎邸



20

第1号、「旧井上房一郎邸」

- 1952年(昭和27年)3月10日:**井上房一郎邸火災全焼。**
- 東京の麻布笄町にあった**アントニン・レーモンドの自宅+アトリエ+事務所**を、井上房一郎が同氏の同意を得て東西を逆転し、**井上が高崎の気候・風土を考慮、自宅として設計改良し、高崎に建てた木造住宅。**



井上さんと「高崎哲学堂」設立運動について

- 1969年(昭和44年)**(財)高崎哲学堂設立の会**準備会発足、翌年認可。
- 井上さんは、高崎哲学堂設立について**「哲学とは、私たちが私たち社会に懸命に生きようとする願望の学問です。高崎哲学堂は、現代の政治や教育の手の届かないことを勉強する高崎の寺子屋です」**
- 井上邸は、井上房一郎さんを中心とする高崎・群馬の**文化的発展の原点**ともいえる場所。
- 多くの若者や文化人がここに集い、芸術や文化などについて語り感じた極めて重要な雰囲気的空間がここにあります。
- 文化の町高崎の原点がこの場所から発信されてきた重要な場所です。

第1号 旧井上房一郎邸



井上邸が「高崎哲学堂」に、

そして現在の「旧井上房一郎邸」が残った

- 2002年3月4日：井上邸が相続税滞納のため公売に。
- 井上さんからの遺産「物事は途中で終わることを自覚して始めなければいけない」井上でさえ哲学堂設立運動は途中で終わっている。市民の手で落札して高崎哲学堂としてよみがえらせよう。
(財団法人高崎哲学堂・原一雄理事長)
- (財)高崎哲学堂設立の会が3億1千万円で落札
(2億1千万円借入れ、原一雄理事長の個人補償)
- 2002年5月13日：(財)高崎哲学堂として発足。
- 一般公開再出発にあたり、当時の原一雄理事長は、開堂講演で「井上さんの志を次いで賢明に生きるための寺子屋としてこの由緒ある場所で勉強を続けていこうではないか！」と呼び掛けています。

第1号 旧井上房一郎邸



- ・「高崎哲学堂」として5月13日から31日迄一般公開
- ・屋根塗装・外壁改修工事、庭園改修工事实施。
- ・講演会、勉強会、演奏会、などに利用。
各種の展覧会や歌会・句会・茶会の場としても**志の高い「公会堂」**となっていくことが、哲学堂のあるべき方向だろうとしていました。
- ・自然に**ボランティアグループ結集**、スタッフと共に維持活動スタート。
- ・仏間南側に原一雄歌碑、設置位置問題(水原徳言デザイン)
- ・高崎哲学堂でスタートし、現在も活動している会等
 - ◇俳句結社「ひろそ火句会.com」 主宰 木暮陶句郎
 - ◇「NPO法人高崎哲学堂」 代表 小川靖夫
 - ◇「たかさき紅の会」 代表 吉村晴子
 - ◇「ぐんま音楽センターを愛する会」第1回開催

旧井上房一郎邸

配置図・平面図(高崎市美術館チラシ・建築解説)



水原徳言さんと歌碑



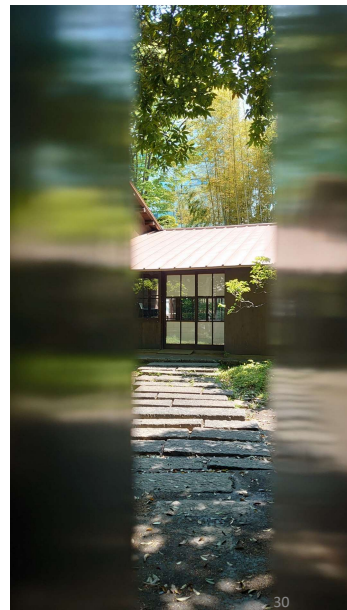
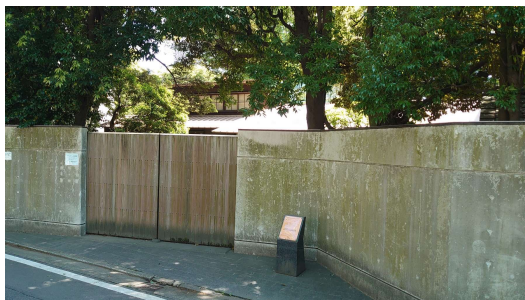
高崎哲学堂から旧井上房一郎邸へ

旧井上房一郎邸を高崎市へ移譲

- 2008年その後高崎市への売却について、
- DOCOMOMOJapanからの建築評価書作成を依頼。
- 2009年(財)高崎哲学堂理事長・原浩一郎から高崎市に移譲。
(原浩一郎から原一雄所蔵絵画を高崎市美術館へ寄贈)
- 現在は隣接する **高崎市美術館の一部として公開**されています。
- **旧井上房一郎邸が、今残された経緯を考えることが高崎に蓄積された文化を次の時代へ継承し、未来に向けた街づくりに繋がると思っています。**

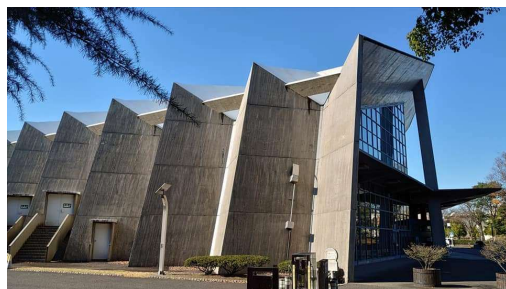
29

第1号、「旧井上房一郎邸」



30

第2号、「群馬音楽センター」



33

DVD

ぐんま！トリビア図鑑 ときの高崎市民之を建つ

2021年12月21日放送

34

第2号、「群馬音楽センター」

アントニン・レーモンド設計・鉄筋コンクリート造

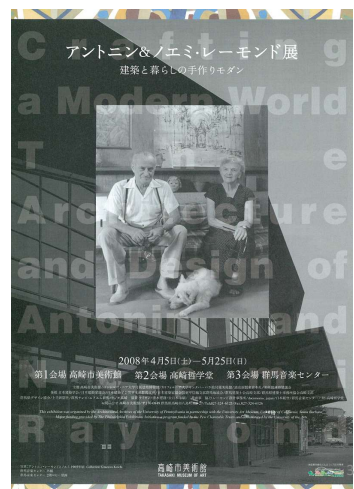
- ・1961年、工事中の音楽センター2階ロビーの壁画制作中現場見学
- ・1961年7月、開館
- ・2000年、文化遺産としてのモダニズム建築・DOCOMOMO20選
- ・2008年4月5日～5月25日アントニン&ノエミ・レーモンド展開催
- ・2008年5月10日、「群馬音楽センターを愛する会」を設立
記念Tシャツ(原画・石沢久夫)。缶バッジ(デザイン・佐藤晃一)制作。
- ・2011年、開館50周年記念連続シンポジウム開催。DVD制作。
- ・2021年、開館60周年記念講演会・群響演奏会開催。
開館60周年記念誌を発刊。
- ・2023年、「群馬音楽センターを愛する会」
第11回ぐんま・街・人・建築大賞 奨励賞を受賞

35

2008年・アントニン&ノエミ・レーモンド展・3会場で開催

高崎市美術館・高崎哲学堂・群馬音楽センター3会場

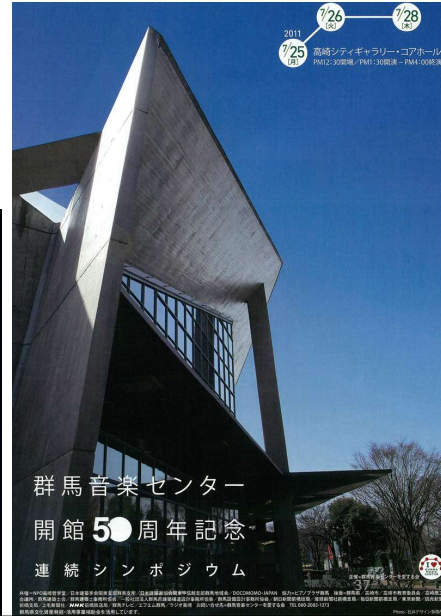
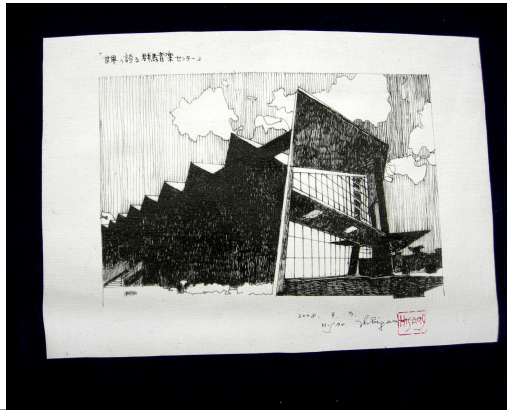
- ・ノエミ・レーモンドと日本動物愛護協会
- ・大村六郎とアントニンレーモンドと三沢浩の事



36

群馬音楽センターを愛する会

「群馬音楽センターを愛する会」在バッジ(4種)
仕上がり直径: 32mm

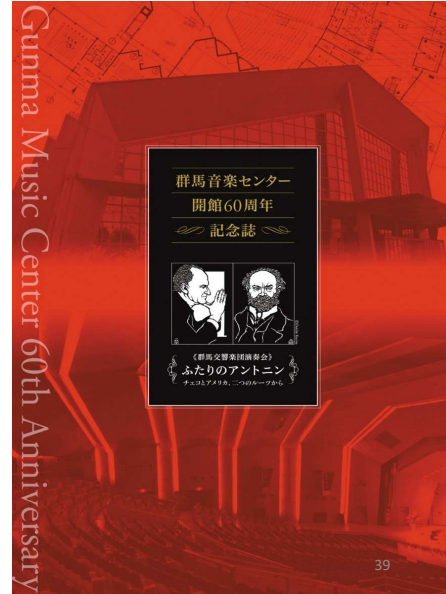


群馬音楽センター開館50周年記念連続シンポジウム開催 開催DVD制作・県立図書館に所蔵



群馬音楽センター開館65周年

講演会・群響演奏会開催 記念誌発刊



「群馬音楽センターを愛する会」

ぐんま 街・人・建築大賞 奨励賞受賞

第11回 ぐんま 街・人・建築大賞

大賞 銘仙・レボリューション 実行委員会

奨励賞 群馬音楽センターを愛する会

まちづくり特別賞 上州文化ラボ

みらい賞 小林 剛



配布資料③

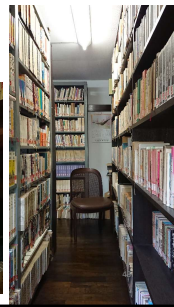
「群馬音楽センターを愛する会」今後の予定

- ・ 2026年に開館65周年を迎えます。
- ・ 「関東と信越つなぐアントニン・レーモンド展」開催予定

第3号 財団法人山田文庫

- 1974年(昭和49年)山田文庫を創設。
山田勝次郎・とく夫妻が私財を投じて、群馬県内の小学校、中学校及び高等学校の児童・生徒に読書を通じて勉強心の昂揚を図ることを目的に県内の学校図書館の図書及び視聴覚教育資料購入の助成を継続している。
- 2012年公益財団法人山田文庫に名称変更。
- 山田勝次郎・とく夫妻の遺産を継承して、私立図書館として設立した組織です。
- 屋敷蔵・茶室・土蔵及び煉瓦塀は明治期に建設。平成22年に高崎市指定第3号景観重要建造物として多くの市民だけでなく、古建築に興味を持つ方々が訪れています。

改修前内部写真



DVD

ぐんま！トリビア図鑑 (財)山田文庫

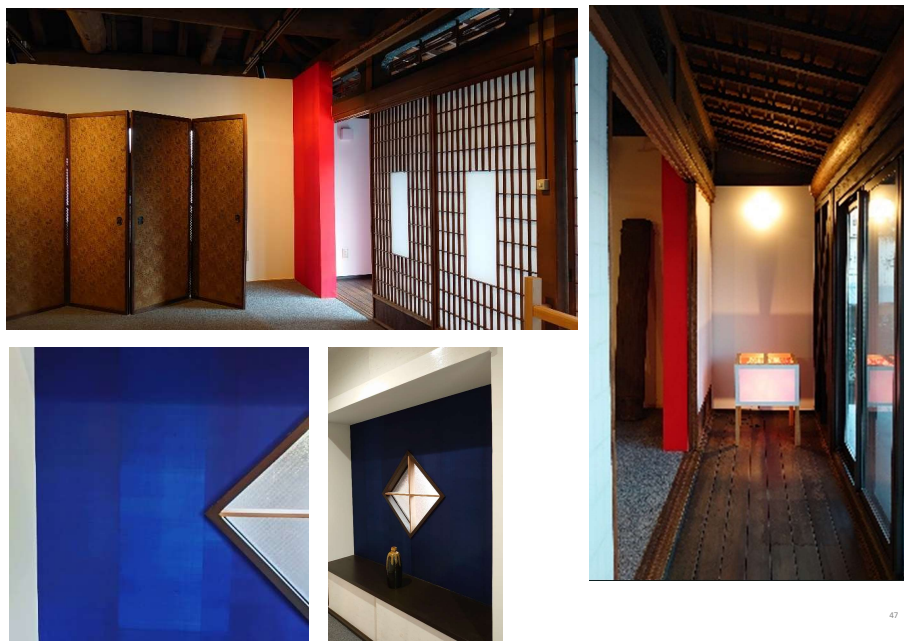
(財)山田文庫



第3号 財団法人山田文庫

- 2020年(令和2年)主屋改修耐震補強工事を実施。
- 「山田文庫はあなたの本棚」をテーマに充実した閲覧スペースを確保。
- 山田文庫の歴史を伝える歴史コーナーを新設。
- 今まで使用できなかった2階への階段を新設し、2階和室を大広間として改修。
- 石膏ボードの天井を撤去すると丸太の小屋組みがあり、これを生かした室内空間構成を目指す。
- 外壁の下見板張りの下地に耐震補強防火ボードを使用して延焼防止構造とする。
- 内壁は耐震補強の構造用合板を生かし、下部は石膏ボード塗装仕上げとし、力強い小屋組みが見える豊かな空間を実現。
- 染色のまち高崎の伝統である「藍染絹布」と「紅染絹布」に和紙を裏打ちし、壁クロス貼りの耐震補強壁として活用し、高崎の歴史文化を発信する。
- たかさきの「歴史まちあるき」の中心的な場所ですので、外部テラスにベンチコーナーを設置し、休憩場所として開放する。

(財)山田文庫改修工事 「藍染絹布」と「紅染絹布」壁クロス貼り



山田文庫主屋改修工事

- ・山田文庫歴史コーナー設置
- ・小屋裏の木組みが見える閲覧・談話スペース設置
- ・オープンカウンターキッチン



配布資料④

高崎市景観重要建築物に関わって 水上勝之/水上勝之建築研究室

高崎市には景観重要建築物に指定された建物が6棟あり、3棟の建物について今まで関わってきました。

第1号、「田井上邸一軒邸」 東京の麻布有明にあったアントニン・レーモンドの自邸を、井上邸一邸が明氏の同意を得て東西を逆転した写しとして高崎に建てた木造住宅。

2002年3月4日に公売にかけられたが、(財)高崎哲学堂設立の会が落札し、5月13日に(財)高崎哲学堂としてオープンしました。私はこの機運として、ボランティアスタッフと共に維持活動に努め、屋根外壁修繕工事等に携わっていました。その後高崎市への売却について、DOCOMOMO Japanからの建築評価作成等に関わりスムーズに高崎市に移譲しました。現在は隣接する高崎市美術館の一部として公開されています。



・田井上邸一軒邸

第2号、「群馬音楽センター」 アントニン・レーモンド設計・鉄筋コンクリート造。

1961年、工事中の音楽センター見学が大きな刺激となり建築に進むことを決めた建物です。2008年5月10日「群馬音楽センターを愛する会」を設立し、2011年開館50周年記念連続シンポジウム開催、2021年開館60周年記念講演会・音楽会・記念誌。



・群馬音楽センター夜景

第3号、「公益財団法人山田文庫」

2020年「山田文庫はあなたの本棚」として改修設計監理を実施しました。



「山田文庫はあなたの本棚」



・緑色の漆調の壁紙と赤土間の床を繋いだタイルの壁紙の連続性。

・紅銅を内装した洋館的作。

・開館室：中央にベラスコヴィツキとしての所蔵と同じ前室で展示場。

・ザルトの丸アールと椅子が有る。

・内閣に明治館に移設された明治時代の茶室。群馬商工会議所の発祥の場所とされている。

●公益財団法人山田文庫は、山田勝次郎・とく夫妻の遺産を継承して私立同善館として設立した組織です。同善館・茶室・土蔵及び後援は明治館に建設。平成22年に高崎市指定第3号景観重要建築物等として多くの市民だけでなく、古建築に興味を持つ方々が訪れています。

●「山田文庫はあなたの本棚」をテーマに充実した周遊スペースを確保し、山田文庫の歴史を伝える歴史コーナを開設。今まで使用できなかった3階を研修室として改修しました。

石目サードの天井を撤去する見込みがあり、これを併せた案内や照明を計画。内閣は耐震補強の構造用合板を敷き、下部は石目サードを撤去し、方眼の今風組が備わった空間を計画しました。

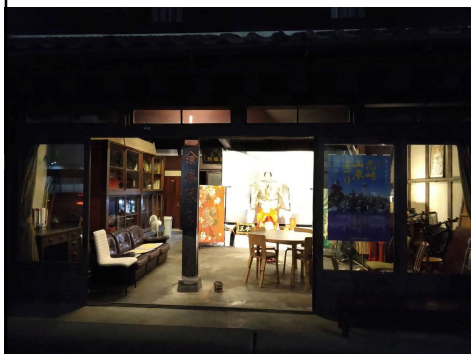
彩色のまじり高崎の伝統でもある「紅染シタタ」と「紅染のシタタ」を壁タタタとして光学的に活用しました。たかききの「歴史まちあるき」の中心的な場所ですので、外部テラスにベンチコーナを設置し、休憩所として開放しています。

第6号 山田家(旧山源漆器店)



山田家(旧山源漆器店)

- ・旧店舗部分にピアノを設置
- ・街中ピアノ・ジャズライブ・スペース等として、活用計画中



51